

日立の指静脈認証装置で POSレジと勤怠管理システムの認証一元化を実現

株式会社 大庄 ▶ <http://www.daisy.co.jp/>

いま外食業界では、競合他社との差別化を図り、ステークホルダーからの支持を獲得するため、接客品質の向上や従業員のモチベーションアップ、内部統制の強化などが重要な課題となっています。

そこで「庄や」「やるき茶屋」「日本海庄や」などの全国展開で知られる

フードサービス大手の株式会社 大庄(以下、大庄)は、

POSレジ会計システムと勤怠管理システムの本人認証に日立の指静脈認証装置を導入。

操作者のログ管理によるリスク対応強化やスキルの向上、

勤怠管理の精度向上と認証システム全体のスピードアップにより、

さらなる経営改革に向けた高効率・セキュアなシステムを実現しました。

Solution & Service case study



株式会社 大庄
管理本部
情報システム部 部長
土屋 敏則 氏



株式会社 大庄
店舗本部
第三支社 首都圏第六店舗部
ブロック長
渡部 和也 氏



株式会社 大庄
管理本部
情報システム部 係長
飯室 裕次 氏



株式会社 大庄
管理本部
情報システム部 係長
内間 智章 氏

指紋に代わる生体認証として指静脈を選定

「庄や」「やるき茶屋」「日本海庄や」などの人気居酒屋チェーンを主軸に、約40業態、全国約990店舗(2009年11月末)を展開している大庄。「人間の健康と心の豊かさに奉仕する」を企業理念とし、安全・安心・旬で新鮮な食材を使用した手作り料理が特長です。

同社はIT活用についても積極的であり、全国店舗に食材や用品を日々遅滞なく送り届ける物流配送システムをいち早く構築。直営店の勤怠管理システムにも7年前から指紋認証装置を導入していました。

「しかし従業員が増加するにつれ、指紋では認証できないケースが増えてきました。特に厨房で働くスタッフは水濡れなどのため指紋認証が難しく、代わりに個人IDでデータを入力するなどのダブルスタンダードが発生していたのです」と語るのは、全国店舗の環境整備を担う店舗本部 第三支社 首都圏第六店舗部 ブロック長の渡部和也氏。IDだけでは本人以外も入力できる可能性があるため、勤怠管理の精度向上をめざす次期システムには、「指紋に代わる本人認証の仕組みが必要」との結論に達しました」と渡部氏は続けます。

同じくシステム更改の時期が近づいていたPOSレジ会計システムについても、「従来は店長などが持っている物理キーでレジを管理していましたが、セキュリティ性と管理性を一段と高めるため、かねてから生体認証の仕組みを付加したいという思いがありまし

た」と語るのは、管理本部 情報システム部 部長の土屋 敏則氏です。「そこで勤怠管理とPOSレジ、これら2つのシステムを連携させた厳格な本人認証システムとして新たに採用したのが、日立さんの指静脈認証装置だったのです」(土屋氏)。

POSレジと勤怠管理システムの指静脈データを一元管理

日立の指静脈認証技術は、生体内の静脈パターンを利用して本人を識別するため、かすれや乾燥肌、水濡れなどによる影響を受けにくい特長があります。また、偽造がきわめて困難なため、第三者のなりすましを防ぐ高度なセキュリティを実現。装置のコンパクトさや認証スピードの速さについても、国内外の導入企業から高い評価を獲得しています。

「手のひら静脈認証も試してみましたが、レジ周りスペースは非常に狭いため、小型で設置スペースの小さい指静脈認証が、当社の利用環境には最適でした。また、指静脈認証は、指紋認証と同じ“指”を使った運用なので、移行に際しての従業員教育も行いやすいと判断しました」(土屋氏)。

2009年6月から首都圏の試行店でテスト導入が開始された新システムは、POSレジと勤怠管理用PCそれぞれに指静脈認証装置が接続されており、従業員は所属店舗のPCから指静脈データを登録する仕組みとなっています。勤怠管理システムでは、出勤

